

（仮称）村松地区周辺地域活性化計画 策定検討経過 中間報告（案）

平成30年3月

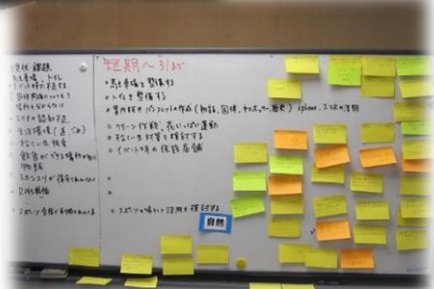
**東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画
策定検討委員会**

1 はじめに

東海村（仮称）村松地区地域活性化計画策定検討委員会（以下「策定検討委員会」という。）は、平成 28 年 9 月 2 日に第 1 回目の会議を開催し、以降、次のとおり会議を開催し、村松地区周辺地域の活性化について議論を行ってきた。

今般、村松地区周辺地域を構成する 4 つのエリア（大神宮・虚空蔵堂エリア，阿漕ヶ浦公園エリア，細浦青畝エリア及び幼保跡地エリア）について、それぞれ活性化に向けた議論を一通り終えたことから、これまでの策定検討経過について、中間報告として取りまとめることとしたものである。

回	期日	主な議題
第 1 回	平成 28 年 9 月 2 日	○東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画策定の概要について ○今後のスケジュールについて
第 2 回	平成 28 年 11 月 30 日	○村松地区（全体）のにぎわいづくりについて
第 3 回	平成 29 年 2 月 10 日	○東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画のコンセプトについて
第 4 回	平成 29 年 3 月 28 日	○村松地区周辺における東海村の取組みについて
第 5 回	平成 29 年 4 月 27 日	○村松周辺エリアにおける短期的取組みについて
第 6 回	平成 29 年 6 月 27 日	○村松周辺エリアにおける取組みの確認について
第 7 回	平成 29 年 9 月 1 日	○幼保跡地エリアにおける取組みについて
第 8 回	平成 29 年 11 月 14 日	○村松周辺エリアにおける軸の考え方について ○計画体系イメージについて
第 9 回	平成 30 年 1 月 22 日	○国体を活用した村松周辺エリアの活性化について ○計画策定スケジュールについて
第 10 回	平成 30 年 2 月 16 日	○細浦青畝エリアの取組みについて
第 11 回	平成 30 年 3 月 22 日	○中間報告（案）について



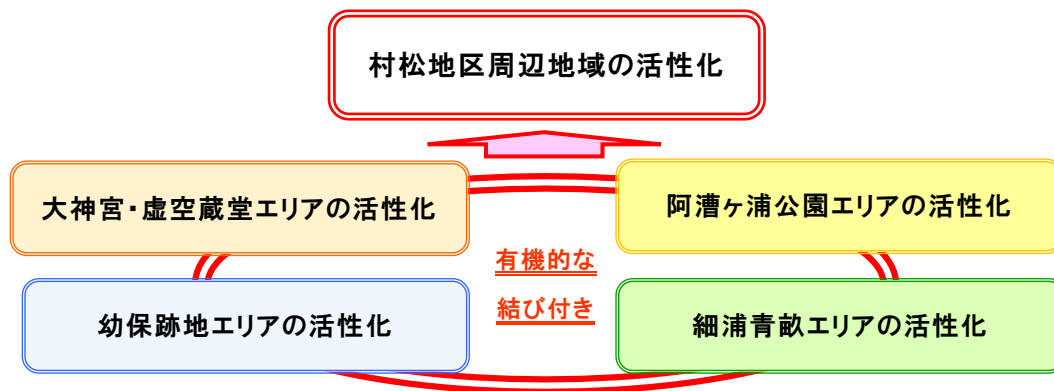
2 計画策定の目的について

本計画の策定の目的について、次のとおり整理する。

- 人口減少社会が急速に進行する中で、地方や各地域には、人口の減少を前提としながらも、歴史や自然、伝統、文化など地域固有の資源を生かしながら、質の高い暮らしを営むことができる「持続可能な地域づくり」を進めていくことが求められている。
- 本計画の対象となる村松地区周辺地域は、大神宮や村松山虚空蔵堂、真崎古墳群や真崎城跡をはじめとした歴史的な資源や、八間道路、細浦、天神山、押延溜などの自然や自然環境、最先端の原子力科学研究施設である大強度陽子加速器（J-PARC）、阿漕ヶ浦公園など、豊富な地域資源に溢れており、これらの地域資源を生かした交流人口の拡大や、村民の地域に対する愛着や誇りなど郷土愛の醸成や高揚に向け、大きなポテンシャルを有している。
- また、2019年の「いきいき茨城ゆめ国体2019」の開催に合わせ、阿漕ヶ浦公園内のホッケー場や園路などの改修が進むほか、一般国道245号の村内区間の拡幅工事も進捗するなど、村松地区周辺地域においては、大規模なハード整備も進んでいる。
- これらの状況を踏まえ、今、村松地区周辺地域は、そのポテンシャルを開花させる大きなチャンスを迎えていると捉え、村松地区周辺地域の地域資源を生かした交流人口の拡大による賑わいの創出と、地域住民をはじめとした村民の郷土愛の醸成や高揚を推進していくため、（仮称）村松地区周辺地域活性化計画を策定する。

3 「村松地区周辺地域」の捉え方について

- 村松地区周辺地域は、「大神宮・虚空蔵堂エリア」、「阿漕ヶ浦公園エリア」、「細浦青畝エリア」及び「幼保跡地エリア」の4つのエリアから構成することとする。なお、各エリアの範囲は、道路等により明確に区分するのではなく、地域資源の所在により、概念的に捉えることとする。
- 村松地区周辺地域の活性化は、「大神宮・虚空蔵堂エリア」、「阿漕ヶ浦公園エリア」、「細浦青畝エリア」及び「幼保跡地エリア」の各エリアにおいて、それぞれの地域資源や特性などを生かした活性化が図られ、それらが有機的に結び付くことにより実現されるものとの考え方に立つこととする。



○なお、各エリアに所在する有形の地域資源としては、主に次のようなものが考えられる。

大神宮・虚空蔵堂エリア	大神宮，虚空蔵堂，八間道路，村松海岸，村松晴嵐の碑，宿通り
阿漕ヶ浦公園エリア	阿漕ヶ浦公園，阿漕ヶ浦，阿漕ヶ浦クラブ跡地
細浦青畝エリア	細浦，天神山，真崎城址，真崎古墳群，押延溜，東海駅五反田線買収済用地
幼保跡地エリア	村松保育所・宿幼稚園跡地，新川，村松コミセン

4 目標とする村松地区周辺地域の将来像（案）

目標とする村松地区周辺地域の将来像について、現時点においては、次のように定めることとし、今後、議論を深めながら、整理していくこととする。

「行ってみたい、住んでみたい、働いてみたい“大空の郷”村松地区」
「温故知新『自然』『科学』『歴史』を体験できる・楽しめる・つながる村松地区」

なお、目標とする村松地区周辺地域の将来像について議論する中で、次のとおり、各委員の意見に「つながり」や「つながる」という趣旨の言葉が多々見受けられた。

○過去・現在・未来がつながる，温故知新 ⇒ 時間的なつながり

○4つのエリアのつながり，ひたちなか地区とのつながり ⇒ 空間的・地理的なつながり

○地域の人がつながる，村外の人とつながる，想いがつながる ⇒ 人と人のつながり

○歴史を知る・学ぶ，自然に触れる・楽しむ，科学を体験する ⇒ 人と地域資源のつながり

○「行ってみたい」から「住んでみたい」や「働いてみたい」につながる ⇒ 活性化のつながり

5 村松地区周辺地域の活性化に向けた基本的な姿勢（案）

村松地区周辺地域の活性化に向けた基本的な姿勢として、次の項目を掲げることとする。

（１）地域資源を最大限に生かす

村松地区周辺地域は、大神宮や村松山虚空蔵堂、真崎古墳群や真崎城跡をはじめとした歴史的な資源や、八間道路、細浦、天神山、押延溜などの自然や自然景観、最先端の原子力科学研究施設である大強度陽子加速器（J-PARC）、阿漕ヶ浦公園など、豊富な地域資源に溢れている。

これらの地域資源は、地域で暮らす住民の方々には「当たり前の日常」であると考えられるが、当たり前の日常であるがゆえにその「魅力」を十分に理解していない場合や、地域の外の方には「魅力」として映る場合も考えられる。

村松地区周辺地域の活性化を推進するに当たっては、地域資源を最大限に生かすことを基本として取り組むこととする。

（２）地域住民をはじめとした村民の郷土愛を育む

村松地区周辺地域は、豊富な地域資源に溢れており、その魅力を求め、村内外から多くの方が村松地区周辺地域を訪れる可能性がある。しかし、当然のことながら、村松地区周辺地域は、多くの地域住民の方々が生活を営む場であることを忘れてはならないと考える。

村松地区周辺地域の活性化を推進するに当たっては、村松地区周辺地域に暮らす方々が、この地域に暮らしていることに、さらに愛着と誇りを持てるように取り組むこととする。

そして、その上で、村内の他の地域に暮らす村民の方々にも、村への愛着や誇り、郷土愛を高めてもらえるように取り組むこととする。

（３）担い手となる人材を育てる

村松地区周辺地域には、歴史、自然、科学など多様な地域資源が所在し、それらを生かした活性化に取り組む上では、地域に暮らす方々をはじめ、多くの方々にその担い手になっていただくとともに、長く活動していただくためには、担い手の一人ひとりが自分の役割を得て、やりがいを感じながら、前向きに活動することが重要になると考えられる。

村松地区周辺地域の活性化を推進するに当たっては、現在、村松地区周辺地域において、本計画の推進に結び付く活動に取り組む団体・組織が連携して取り組めるよう、また、地域に暮らす方々をはじめ、多くの方々が担い手となり、継続して活動いただけるよう、「人材確保」や「人材育成」を意識しながら取り組むこととする。

(4) エリアなどを超えて連携する

村松地区周辺地域は、「大神宮・虚空蔵堂エリア」、「阿漕ヶ浦公園エリア」、「細浦青畝エリア」及び「幼保跡地エリア」の4つのエリアにより構成されるが、それぞれのエリアが固有又は特徴的な地域資源を有しているため、各エリアの特徴は異なるものと考えられる。そのため、各エリア単位で活性化を図りながらも、他のエリアの地域資源などと有機的に結び付けることにより、より大きな効果が得られる可能性がある。

また、村は、コンパクトな面積の中に多様な文化財や自然などの地域資源を有しており、村民の方々に、より村への愛着や誇り、郷土愛を高めていただくためには、村内各所の地域資源と連携することも重要であるほか、交流人口の拡大を図る観点からは、国営ひたち海浜公園や東海駅からの「人の流れ」を意識することも重要であると考えられる。

村松地区周辺地域の活性化を推進するに当たっては、村内の各地域との連携や、村外からの「人の流れ」を意識しながら取り組むこととする。

(5) 情報を戦略的に発信する

村松地区周辺地域の地域資源を最大限に生かし、交流人口の拡大による賑わいの創出と、地域住民をはじめとした村民の郷土愛の醸成・高揚を推進していくためには、積極的な情報発信に取り組む必要がある。また、担い手となる人材を確保し、育成していく観点からも、地域に暮らす方々をはじめ、より多くの方々に対して、村松地区周辺地域の活性化に向けた取組内容を伝え、共感を得ていくことが重要になると考えられる。

村松地区周辺地域の活性化を推進するに当たっては、積極的な情報発信に取り組むこととし、かつ、情報発信の目的（情報発信によりどのような効果を得たいのか）、ターゲット（誰に情報を届けたいのか）、時機（どのタイミングで発信するのが効果的なのか）、手段（ターゲットに対してはどのような手段が最も有効なのか）を意識しながら、戦略的に取り組むこととする。

(6) できることから始めていく

村松地区周辺地域の活性化に向けた具体的な取組内容の中には、短期的に実現できる項目もあれば、関係機関や関係者との協議・調整に多くの時間を要することが見込まれ、中長期的な視点から取り組む必要がある項目も考えられる。また、どのように財源を確保していくのかも課題になると考えられる。

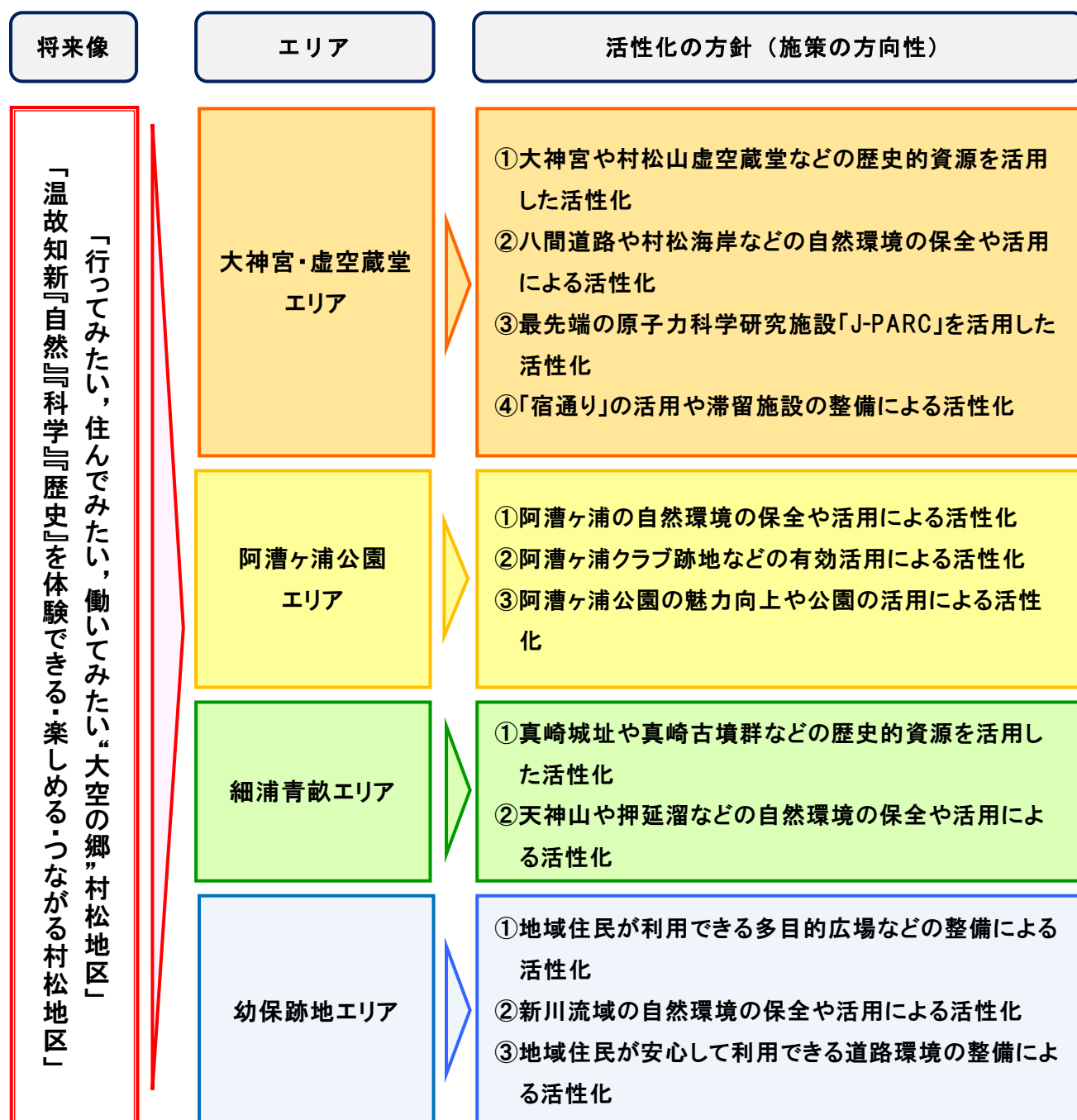
村松地区周辺地域の活性化を推進するに当たっては、短期的に実現可能な取組みに着実に取り組むとともに、中長期的な視点から取り組む必要がある項目についても、バックキャストの思考法により、できることから前向きに取り組むこととする。

6 施策の体系（案）

（１）施策の体系（案）

第10回までの策定検討委員会における議論を踏まえると、本計画の施策体系（案）として、次のような体系が考えられる。

なお、引き続き、活性化の方針や具体的な取組内容について、策定検討委員会において議論していく予定であり、今後、施策の体系は、修正になる可能性もある。



なお、施策の体系（案）は、次のとおり、これまでの策定検討委員会における委員意見などを踏まえて整理した。

大神宮・虚空蔵堂エリア

《策定検討委員会で出された主な意見など》

東海村の始まりを学ぶことができる・修行できる・説法・説経・必勝祈願・大神宮や虚空蔵堂境内でのイベント実施・周辺市町村の寺社と連携した寺社巡り・VRやAR技術を活用した歴史（製塩の歴史等）の見える化・歴史的景観の再現・観光情報の多言語化・十三詣りなどのPR など

活性化の方針①

大神宮や村松山虚空蔵堂などの歴史的資源を活用した活性化

《策定検討委員会で出された主な意見など》

松枯れ対策・ハマナスやスカシユリの保全・村松晴嵐の碑周辺整備・櫓の設置・八間道路の活用（白砂青松の復元）・スポーツ合宿の推進・スポーツイベントの実施・写真撮影スポット・村松海岸へのアクセス向上・阿漕ヶ浦公園からの村道整備（防災上も含む） など

活性化の方針②

八間道路や村松海岸などの自然環境の保全や活用による活性化

《策定検討委員会で出された主な意見など》

原子力や科学を学べる場所・最先端の研究施設の存在をPR・外国人研究者との交流・J-PARCの活用・J-PARCアクセス道路の整備 など

活性化の方針③

最先端の原子力科学研究施設「J-PARC」を活用した活性化

《策定検討委員会で出された主な意見など》

年間を通じた参拝客の増加・月替わりでイベント実施・空家への店舗の誘致・若手のチャレンジ支援・参道の整備・飲食ができる・土産が買える・雑貨等が買える・駐車場及びトイレの確保・インフォメーションセンター・カフェ・道の駅 など

活性化の方針④

「宿通り」の活用や滞留施設の整備による活性化

阿漕ヶ浦公園エリア

《策定検討委員会で出された主な意見など》

湖畔を周遊する散策路や横断歩道橋の設置・水辺の景観の活用 など

活性化の方針① 阿漕ヶ浦の自然環境の保全や活用による活性化

《策定検討委員会で出された主な意見など》

阿漕ヶ浦公園の駐車場としての活用・カフェなどの設置 など

活性化の方針② 阿漕ヶ浦クラブ跡地などの有効活用による活性化

《策定検討委員会で出された主な意見など》 ※村による公園再整備計画の内容を含む。

阿漕ヶ浦公園への進入道路の整備・ホッケー場の人口芝生化と夜間照明の設置・多目的広場や園路、遊具広場の再整備・駐車場の整備・桜並木の名所化・大神宮や虚空蔵堂への動線の確保・高校や大学のスポーツ合宿に利用しやすい環境整備・阿漕ヶ浦公園を拠点としたランニングコースの設定 など

活性化の方針③ 阿漕ヶ浦公園の魅力向上や公園の活用による活性化

細浦青畝エリア

《策定検討委員会で出された主な意見など》

真崎古墳群の整備・歴史を学ぶ散策路やウォーキングコースの設定・真崎城を想像する“真崎城址コンテスト”の実施 など

活性化の方針① 真崎城址や真崎古墳群などの歴史的資源を活用した活性化

《策定検討委員会で出された主な意見など》

ホテルの生息地の環境保全・里山の保全・東海駅五反田線買収済用地の活用・天神山の眺望の活用・田んぼアート・子ども達が自然環境と遊べる場所・県下一低い山のPR・インスタ映えするスポットの設定 など

活性化の方針② 天神山や押延溜などの自然環境の保全や活用による活性化

幼保跡地エリア

《策定検討委員会で出された主な意見など》

今ある樹木を活かす・高齢者のグランドゴルフ場の確保・子どものスポーツ広場・地域住民が気軽に散歩できる場所・コミセンやこども園でのイベント時の駐車場不足・国体開催時に使える駐車場整備・正月時の駐車場利用 など

活性化の方針① 地域住民が利用できる多目的広場などの整備による活性化

《策定検討委員会で出された主な意見など》

自然生物の観察・河口でのシジミ採り・川沿いの散策路・常陸那珂港区からの導線延長・川辺でのＢＢＱ・カヌー遊び等のレジャー・水の導線創出 など

活性化の方針② 新川流域の自然環境の保全や活用による活性化

《策定検討委員会で出された主な意見など》

安全に４車線を横断できる・園児の散歩時の安全確保・見通しの悪いクランクの解消 など

活性化の方針③ 地域住民が安心して利用できる道路環境の整備による活性化

７ 国体の開催を活用した活性化について

本県においては、2019年に「いきいき茨城ゆめ国体」が開催され、阿漕ヶ浦公園がホッケー競技会場になることから、開催期間中、出場選手、大会関係者をはじめ多くの関係者が来訪することが見込まれる。

本計画は、中長期的な取組みも含めることを想定したものであるが、国体の開催期間中、多くの来訪客に対し、主に大神宮・虚空蔵堂エリアの魅力を発信することは、今後の村松地区周辺地域の活性化に結び付くものであると考え、短期的な取組みの１つとして、国体の開催を活用した大神宮・虚空蔵堂エリア（一部、阿漕ヶ浦公園エリアを含む。）の活性化について議論した。

各委員の主な意見は、次の表のとおりであったが、国体の開催に関する情報（開催期間、総試合数、１日当たりの試合数、来場チーム数、各チームの年齢・男女構成、宿泊予定場所、競技会場内へのブースの設置予定など）を可能な限り把握した上で取り組む必要があるとの意見があった。

表：国体の開催を活用した活性化に向けた各委員の主な意見

場所など	各委員の主な意見（要約）
共通	<ul style="list-style-type: none"> ○阿漕ヶ浦公園から虚空蔵堂前までの移動手段（シャトルバスなど）を確保する。 ○地域資源の所在や内容が記載された公園周辺マップ・パンフレットを作成し、配布する。 ○大神宮や虚空蔵堂、村松晴嵐の碑に誘導する案内看板を設置する。 ○レセプション行事として、御祈祷、大神宮・虚空蔵堂などを案内する。
大神宮・虚空蔵堂	<ul style="list-style-type: none"> ○必勝祈願を行う。 ○期間限定の御朱印や御札を授ける。 ○国体の開催期間に合わせてイベントを実施する（早朝座禅など）。 ○期間限定で「茅の輪」を設置する。
阿漕ヶ浦公園	<ul style="list-style-type: none"> ○公園側からの阿漕ヶ浦の眺望を改善する（下草刈や枯れ木の除去など）。 ○阿漕ヶ浦公園から大神宮・虚空蔵堂までの経路を「ヴィクトリーロード」に設定する。 ○インスタ映えするような写真スポットを設置する。 ○国体開催記念として桜を植樹する。
村松晴嵐の碑・八間道路	<ul style="list-style-type: none"> ○村松晴嵐の碑の入口（国道 245 号沿い）に案内板を設置する。 ○村松晴嵐の碑までの進入路を整備する。 ○村松晴嵐の碑周辺の景観を整備する（枯れ松の伐採や松枯れ対策など）。 ○海が見えるように仮設の櫓（やぐら）を設置する。 ○村松海岸までの景観を整備する。
阿漕ヶ浦クラブ跡地	<ul style="list-style-type: none"> ○臨時駐車場として利用する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ合宿を P R する（阿漕ヶ浦公園ホッケー場・八間道路・旅館をセットとしたパンフレットなどを作成し、配布する）。 ○国体開催を契機に、大神宮・虚空蔵堂などを案内するボランティアを養成する。 ○ホッケー応援隊を創設し、会場周辺の美化活動や飾りつけを行う。

8 東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画策定検討委員会委員

氏 名	所属など
小原 規宏	茨城大学 人文社会科学部 現代社会学科 准教授
久賀 幸夫	宿区自治会 代表
川亦 洋子	宿区自治会 代表
坪 陽一	真崎区自治会 代表
安尾 清志	真崎区自治会 代表
荒木田 泰宗	大神宮 代表役員 宮司
原 智生	村松山虚空蔵堂 副住職
井坂 文明	東海村観光協会 会長
川崎 敏秀	東海村商工会 理事
宇野澤 治	東海村旅館組合 組合長
藤田 甲樹	国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構 東海管理センター 副センター長
川崎 道隆	公募委員
鈴木 さちよ	ハーモニー東海第 12 期生
鈴木 千佳	ハーモニー東海第 12 期生

（順不同・敬称略）